

感染症情報 2月19日～25日

府下小児科199療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1030例(堺市	46例)
②溶連菌感染症	381例(堺市	22例)
③RSウイルス感染症	111例(堺市	4例)
④突発性発疹	65例(堺市	3例)
⑤みずぼうそう	57例(堺市	0例)

府下インフルエンザ定点305医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 6193例(堺市 537例)

が報告された。

感染症報告数は前週比12.8%増の1,752件であった。

報告の第1位は感染性胃腸炎で、以下溶連菌感染症、RSウイルス感染症、突発性発疹、みずぼうそうの順であった。

感染性胃腸炎は府下で前週より14%増、堺市では前週より23%減であった。溶連菌感染症は府下で前週より14%増、堺市で前週28例→今回22例で21%減であった。RSウイルス感染症は府下で前週比11%増、堺市で前週と今回とも4例であった。みずぼうそうは府下で前週が42例→今回57例で36%増、堺市では前週が1例→今回は0例であった。

インフルエンザは府下で前週7951例→今回6193例で22%減、堺市では前週754例→今回537例で29%減となった。定点当たりでは前週が26.2で、今回は20.3であった。大阪府下では、警報レベル開始基準値の30.0を全ブロックで下回った。

麻疹や風疹の報告はなかった。